

# 「ともに未来を描き、考え、行動するわたしたち」

～ War Memorial Primary School との気候変動の学習交流から学ぶ持続可能な世界～

気仙沼市立鹿折小学校 教諭 千田 康太

気仙沼市・宮城教育大学連携センター 主任運営員 浅野 亮

## 1 日本であまり感じられない気候変動の影響のインパクトをどのように実感したのか

- 2018年度から海洋と地球環境のつながりと仕組み、それらの変化について、5年、6年を中心に教科横断的な探究活動を進めている。

東京大学海洋教育センターの丹羽淑博特任准教授、東北大学大学院理学研究科の須賀利雄教授、日本キリバス協会のケンタロ・オノ代表理事などから、地球全体の偏西風と海流との関係、暖流・寒流による対流、海水温上昇に伴う地球温暖化、気候変動による台風等の気象災害の多発化と激甚化など、気候変動の現状と生活への影響、日常生活と気象危機との因果関係について専門的に学んできたことで、子供たちは気候変動を身近な出来事であると認識し、自分事として危機感をもつようになってきた。

- 昨年7月の九州での豪雨災害では、震災直後から継続して支援をいただき、桜を通じて交流を深めている福岡県大牟田市の小学校が大きな被害を受けたことに衝撃を受け、他人事ではない問題として身近に考えるきっかけの一つともなった。
- 地球規模で確実に進行している気候変動が引き起こす海の温暖化などにより、水産業を基幹産業としている気仙沼市への影響も大きく、近年のサンマの不漁をはじめとする水揚げ量の減少、水揚げされる魚種の変化、漁業水域の遠方化などによる経済損失など、「海と生きる」気仙沼への打撃が大きくなってきていることを実感的に、切実な問題として捉えられるようになってきている。
- 海の豊かさと恵みの側面と、気候変動がもたらす海の危機、それらが影響を及ぼす気仙沼の水産業と経済、自分たちの生活とのつながりについて深く知り、学び、できる行動を起こそうという意欲が高まってきている。
- ケンタロ・オノ代表理事から聞いたキリバスの現状と未来に対して、上記の認識がさらに強化され、現実の問題としてユネスコスクール間で交流する意義に向き合おうとしている。

## 2 その気候変動と私たちの日常生活との因果関係をどのように捉えることができたのか

- 4年で学んだ鹿折川の環境、利水、治水などと、豊かな水が育む多様な生命と私たちの生活への潤いなどが、昨今の気候変動に伴う豪雨や洪水、土砂災害などにより危機にさらされつつあることに目を向けるようになってきた。森川海の豊かな環境に恵まれている気仙沼も例外ではなく、気候変動の影響を受け始めていることを理解してきている。
- 主に5年で深く学んできた気仙沼の水産業が、地球温暖化の影響を受けて、持続不可能な状況になる恐れがあることを、漁業従事者や漁船員などから直接聞いたことで、その深刻さを理解し始めた。

- ・ ここ 3 年ほどは自分たちが住む地域気仙沼を象徴する魚「サンマ」が水揚げされなくなってきている異常な状態が続いている。今まで当たり前のように売られ、当たり前のように食べられていたサンマが容易に手に入らなくなり、人が生きるための「食」にも影響している。「海と生きる」気仙沼では市漁業や水産関連企業で働く人が多く、水産クラスターがまちの経済や人々の生活を支えている。気候変動の影響をまともに受けて、水揚げ量が減少することは、産業の衰退のみならず、気仙沼の伝統や文化へ等、様々な面に対して負の影響を生み、連鎖的に深刻な問題につながっていくことを児童は理解し始めてきている。
- ・ 鹿折小学校に統合した旧白山小学校では、毎年全校児童による「雪上かるた大会」が恒例行事として開催されていた。その伝統を受け継ぎ、大切にしてきたこの行事が近年の雪不足のために開催が困難になってきている。一昨年は全く雪が積もらず「寒中かるた大会」に変更した。昨年はうっすら積もった雪の上でかろうじて開催できた。気候変動は児童が楽しみにしている学校行事にさえも影響を及ぼしていることを児童は悲しんでいる。

### 3 その気候変動の緩和のためにどのような対策や行動を起こそうとしたのか

- ・ 鹿折小学校では、教科等や特設領域「海と生きる探究活動」だけではなく、児童会活動や有志児童による主体的な活動においても、気候変動に向き合う活動に取り組んでいる。一昨年度からは、6年生が中心となって始めた「エコバッグ運動」や「フードロス運動（給食を残さず食べる残食ゼロ運動）」を全校で継続している。
- ・ 現 5 年生有志が 2 年生の時に組織し、継続して取り組んでいる「小さなユネスコ隊」活動では、新聞紙を再利用した手作りバッグを地域の店舗で活用してもらうよう働きかけたり、友達を誘いバッグの用途に合った形態を工夫したりしながら作成したり、周囲に作成と使用を働きかけたり積極的に活動している。
- ・ この小さなユネスコ隊の児童が率先役となりながら他の児童を巻き込み、校門付近の歩道の落ち葉掃きを行い、学校備え付けのコンポストに堆積し、腐葉土として活用できる取組も継続している。
- ・ 全校縦割り班活動の一つとして、環境委員会を中心に校地内花壇の植栽活動を行い、環境美化とともに緑を増やし CO<sub>2</sub>削減につながる活動を行っている。
- ・ 身近な「食」を切り口に、倫理的な生産と消費（エシカル、3Rs など）へ意識を向け、気候変動の緩和を目指している。食は人間の生活になくてはならないものであり、地球温暖化の影響をまともに受ける自然が育む恵みそのものである。気候変動が「食」に与える影響、私たちの「食」が地球環境に及ぼす影響を身近に考えられる教材として、5 年、6 年では家庭科 SDGs に取り組んでいる。
- ・ 6 年生では「スローフード運動」「地産地消」「食品ロスの削減」をテーマに活動を進めている。気仙沼市は、日本で初めてスローフード都市宣言を行ったまちである。カーボンフットマイレージの高いファーストフードを食べる生活から、地域で取れた食材に感謝をして、食べ残しのないように食すことを大切にしようとして行動している。また、そのような児童の考え、思いを学校全体で取り組もうとしている。教科等や「海と生きる探究活動」で学んだことを、委員会活動等でも取り組めるよう

に配慮している。給食・保健委員会が「ぱくぱく週間」を設定し、残食ゼロを目指して全校で取り組んでいる。

- ・ 「地産地消」「食品ロスの削減」をテーマにしたオリジナル弁当の考案をカリキュラムに位置付けている。リモート授業で、会津若松市で食育に携わる山際博美さんの指導を受けて、メカジキやカツオなど、気仙沼で水揚げされる食材のレシピを児童一人一人が考える。12月に探究旅行で会津を訪れた際に、昼食時にお弁当として、児童考案のオリジナル弁当を味わう。

#### 4 気候変動の影響を受けている人々や国々に対して、どのような支援や行動ができるのか

- ・ 今年度、仙台ユネスコ協会の支援によるキリバス共和国との交流で、地球温暖化の影響を受けている国や人々の持続不可能性が高まっている現実を正しく理解し、その問題を解決するために自分たちができること、一緒にできることを考えている。
- ・ ケンタロ・オノ代表理事、そしてキリバス共和国との交流（児童間及び教職員間）を通して、自分ができること、自分の地域で継続してできることを、協力しながら実践していく。また、教師自身がキリバスの現状を通じて気候変動への理解を深くし、探究的なカリキュラムづくりと効果的な指導に活かせるように創意工夫していく（図1, 2, 3）。



図1 気候変動講話（ケンタロ・オノ代表理事）

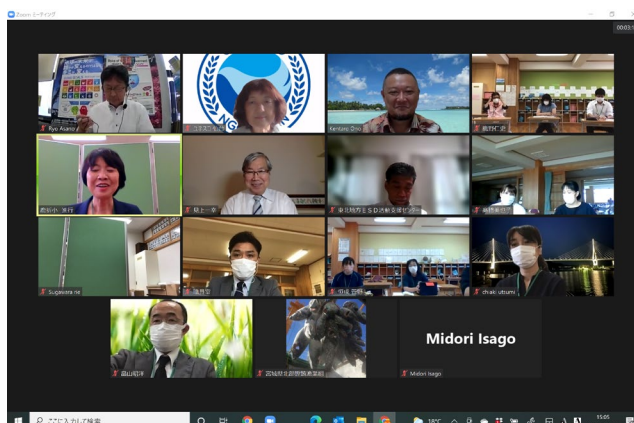


図2 教員間による学び合い研修

（鹿折小、WM校、仙台ユネスコ協会、宮教大連携センター）



図3 War Memorial小学校の児童との交流

- ・ 児童一人一人が学校内だけでの行動ではなく、家族と一緒にあって日常生活の中で改めなければならぬ無駄を減らしていく。
- ・ 自分自身はもちろんであるが、児童一人では緩和に結び付かない取組については、友達や家族、周囲の大人や地域にも働きかけていく。
- ・ 共に未来を創るパートナーとして、協力してできるアクションを起こす。

なお、政府系ウエケラ紙と国内唯一のテレビ局を運営する会社が、親会社が発行する民間のキリバスニュースター紙に両校の交流が掲載される(図 4, 5, 6, 7)。

**Te reitaki ae e aanaki n ana Boto n Iango UNESCO**

**Rongorongon Aonaaaba Ae e kimototo**

**E na nakoia membwa n ADB US\$100b**

15 Okitobwa, 2021 Kiribati Newstar 13

図4 キリバスニュースター紙 (2021年10月15日号13面)

**Kiribati Newsstar 2020年10月15日号13面**

**ユネスコ精神で交流**

ユネスコ精神で交流  
 国連教育科学文化機関は国連の組織で世界における教育、科学、文化振興のために1945年、第二次世界大戦後設立された。ユネスコ憲章の前文は「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と謳っているほか、我が国ではPIPAが登録されている世界遺産の登録と事務局活動を担っている。

このユネスコ憲章の精神を民間・草の根レベルで担い啓発するため、1947年に日本の仙台市に世界初のユネスコ協会が設立された。これは日本が1957年に国連に加盟するはるか前のことで、現在ユネスコ協会・クラブは世界に4000近い数を数える。

仙台ユネスコ協会は昨年2020年から、キリバスにおいてこのユネスコ精神をもとに、キリバスの学生や青少年を含む民間レベルにおけるユネスコ精神の啓発と普及のニーズ確認調査、両国におけるオンライン交流の可能性などの調査のほか、日本国内ではキリバスを題材とした日本の国際貢献や環境教育、SDGsなどの小学校6年生の社会科の学習プログラムを作成し実施した。この事業には日本キリバス協会と東北地方ESD活動支援センターが協力している。

その一環として9月28日に南タラワのWar Memorial小学校と日本の気仙沼市にある鹿折小学校の教員同士のオンライン交流が行われた。この交流は、今年11月に想定されている両校の児童によるオンライン交流前に、仙台ユネスコ協会と気仙沼市・宮城教育大学連携センターの共同事業として東北地方ESD活動支援センターの協力の下実施され、また来年1月にはキリバスの歌や踊りと日本の歌と踊りによるオンライン交流が予定されている。

近い将来に、ユネスコ精神をキリバス国内に普及のため、キリバスユネスコ協会が設置されることが大きく期待されており、仙台ユネスコ協会が全面的にバックアップすることになっている。

図5 図4の概要



## Ana Koonā Te Reirei

# Aia moan itaramata rinanon te zoom ana moanrinan n reirei Kiribati ma Tiaban

E A tauraoi ngai War Memorial Primary School n Tiaban tabeua te rabakau ni Kiribati ma ana moanrinan teuana Tiaban ae Shishiori Primary School i aon Miyagi.

E taku te kauoman ni mataniwi n te moanrinan aei ae Nei Rouata Tioti bwa e moanaki te reitaki aei mai nanon Tuun - te taiare e moan roko iai te reta ni kakao i aon te waaki aei.

"Ao ai bon ara reirei naba are e rineaki bwa ti kukurei te waaki n reirei aon n reitaki aon e a bon butimwacia naba ara mataniwi i aon are e aataa bwa iai te bwa ae e na reke mai iai nakoia ataei ae e bongana ibukin te reirei" e taku Rouata.

E katautaua nei bwa rineakin aia reirei mai buakoa reirein Kiribati aika e kakaokoro tao ibukina nge ngaia teuana te moanrinan n reirei ae e rangi ni korakora mwaitia ana ataei.

"Te moan bwai ae ti karaoia, ti zoom ma taan reirei mai Tiaban, i nanon tain te zoom ao a tuangira naba taan reirei bwa ti a tia ni karaoa ara cultural day ke ti tuai. E a bon tia n nako tain te cultural day ma ngaira ti tuai kanoa ma tao iai bukina ae e riai, ao ti a motikia naba bwa

ti nang kaai ni kanakoi ara cultural day, ngaira a kanoa mai ikekei ao ngaira mai ikekei ao class 3 are e na tabekinna.

Aei ai bon tibwa te moan reitaki ma te moanrinan n reirei mai abatera ae e rangi ni kakaawaki are e a karekea te reirei aei i nanon te ririaki aei.

E korakora ana kaantaninga Rouata bwa e na kona n riki te reitaki aei bwa teuana angan kaotan matan mwaiwan ma katein te i-Kiribati nakon te aonnaaba rinanon te intanete n ikotaki rabakau riki ni Kiribati aika e kakokoro.

E taku Rouata bwa n te tai aei ao e a tia n rineaki ataei ake a na karaoa te kanoa aei ao taan reirei a tia n reitaki ma kaaro i aona.

Bon iai naba aia kanoa koraki ae e atuauaki n te boteniango ae e ran bon mauia kaain Kiribati

Ao aia kanoa n reirei Class 3 bon i aon te iokinibwai, ao Class 6 e boboto i aon aia rinerine ataei bwa tera nakoia nakon taai aika a na roko.

A tiku ngai ma te kakatauraoi ao te ingainga mnan taan reirei ao ataein te War Memorial Primary School nakon aia tai are ana itaramata iai i aon te zoom ni

kanakoi katein abai ake a na tauraoi n i bwaia ma ma ataein Shishiori Primary School n tain aia cultural day i aon te zoom.

Ni kanoan aia burokuraeni reirei aikai n aron are e katera ana itabon Kiribati Newstar mai

Tiaban ae Kentaro Ono ao e kaangai aron tain ala reitaki ataein reirei aika soua aikai: Class 3 12 Nobembwa 2021 man 11:45-12:45 Class 4 12 Nobembwa 2021 man 13:30-14:30 Class 5 19 Nobembwa 2021 man 11:45-12:45 Class 6 19 Nobembwa 2021 man 13:30-14:30

Ibukin te kangaanga ni matamaten te iai ao te intanete ao a na kaai ni ma-rooro ataein kiraati aikai i marenaia n Tobaraoi Bikenibu.



Te War Memorial Primary School are i Bangantebure ma ana kauoman ni mataniwi ae Nei Rouata Tioti. A ingainga ataein te reirei aei ma aia taan reirei ni kan itaramata ma kautaboia mai Shishiori Prim. Sch.



Shishiori Primary School ma ana ataei (insert) nge e relakinaki aon unikan te raiti, te rabakau are e rangi ni mwatati iai taan ununiki i aon Tiaban, ai moaraara riki n aonona ake e korakora unikan te raiti iai.

A butimwaeaki reirei nako ni kamanenaa te iteraniba aei n rongorongon bwai aika a riki n aron taian waaki ni karikira, takaakoro, iwawaaki ao a mwaiti riki n akea boona. A riai rongorongon n iai tamenaa

図6 キリバスニュースター紙 (2021年10月29日号5面)

## キリバスニュースター紙 2021年10月29日号

### 我が国と日本の小学生による Zoom 交流初開催 (5面)

南タラフにある War Memorial 小学校は日本の宮城県にある鹿折小学校にキリバスの文化や事情を紹介する準備を行っている。同校のロウアタ・ソーシ副校長によると、今年6月に交流のオファーが寄せられ「児童の教育に大変有益であると校長が判断し、この交流が進められることになった。国内に数多ある小学校の中から我が校に直接オファーが寄せられたのは、我が校は国内でも有数のマンモス校であるためと考えている」と語った。

また同じくソーシ副校長は「まず両校の教員の間で Zoom 交流が行われ、その中で文化祭のようなものがキリバスにもあるのか聞かれた。この Zoom 交流が行われた時には、国内の他校では文化祭は終わっている時期だったが、我が校はスケジュールの関係でまだ実施していなかったため、鹿折小学校との Zoom 交流の日に合わせて文化祭を開くことになった」と語った。鹿折小学校にキリバスダンスを披露するのは3年生の児童で、鹿折小学校の3年生の児童も現地の踊りなどの文化を披露することになっている。

我が国の小学校が海外の小学校がリモートで交流することは史上初のことであり、インターネットを介してキリバスダンスやキリバス事情を世界に発信すると、War Memorial 小学校は学校と保護者を挙げて準備を進め成功に大きく期待している。

また今回の交流では3年生の文化、4年生の命の源である水、5年生は産業・貿易、6年生は未来と各学年ごとに違うテーマが設定され、各学年代表の児童が参加することになっている。このプログラムの調整に当たっているケンタロ・オノ氏がキリバスニュースター紙に語ったところによると、3年生は11月12日の11時45分から12:45分、4年生は11月12日の13時30分から14時30分、5年生は11月19日の11時45分から12:45分、6年生は11月19日の13時30分から14時30分にオンライン交流が行われる予定で、会場はインターネット回線と電気の安定した環境が必要であることから、War Memorial 小学校の児童はビケニペウのトラバオーイトラベル社貸会議室から参加する。

図7 図6の概要

また、キリバス国内唯一のテレビ局 KiriOneTV にも取り上げられ、我が国 (キリバス) のような小国と、日本という大国の児童が交流することは、世界平和構築に大変有意義なものであり、また双方の児童が双方の国を知ること、教育の観点から非常に素晴らしいという内容で、今回の、キリバス国内最大規模である War Memorial 小学校と鹿折小学校との交流について紹介された (図8,9)。



図8 Kiri One TV の一場面



図9 インタビューを受ける副校長の Rouata Tioti (ロウアタ・ソーシ) 先生